日刊 人吉新聞
発行所 人吉新聞社
〒868 人吉市西間下町112-2
電話(0966)24-2111(代)
定価一カ月1600円

24時間 ハーキ
ANADAMA
赤五
ご利用の際は無料

山江ごみ処理場に実証プラント建設へ

焼却灰を溶融し減量

行政組合とメーカーが協定

人吉球磨広域行政組合は五日、日本環境保全株式会社（本社茨城県牛久市）と、渡周作代表取締役）が開発した「超小型焼却灰溶融炉」の実証試験を、山江ごみ処理場で実施する協力協定の覚書を交わした。

同社では、さっそく今月中にもプラントの建設に着手し、来年四月から一年間にわたって稼働させデータの採取を行う計画。焼却灰を埋め立てている同組合では「焼却灰の減量で最終処分場の延命につながる」と期待を寄せている。

同社が開発したプラントは「NK―1000」と呼ばれる日本最小の溶融炉。

可燃ごみを燃やしたあとの焼却灰を、一六五〇℃から一八〇〇℃の高温で溶融し、スラグと呼ばれる無機質の小さなガラス状固化物に処理する。その結果、焼却灰の質量を半分以下に減らすことができ、生成された溶融スラグは瓦やブロックなど建設資材として再利用も可能という。

これまでの溶融炉に比べて小型のため設置面積が小さく、燃料に廃油などが使用できるためランニングコストが安くて済むのが特徴。

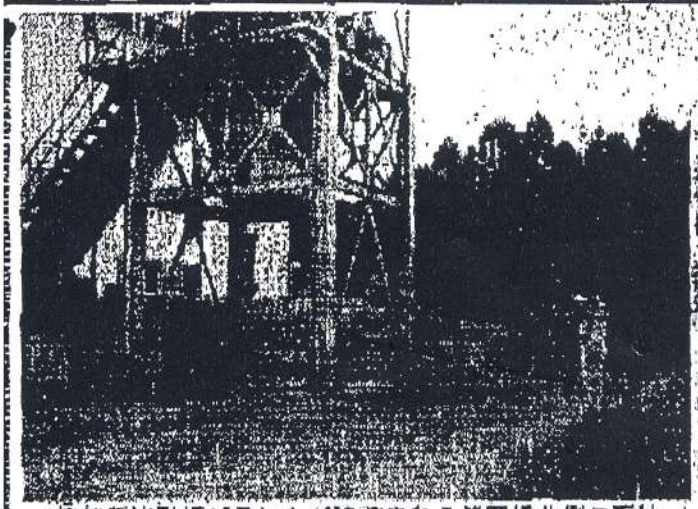
茨城大学工学部や県工業技術センターなどと共同で研究開発し、五年前から茨城県新利根町でプラントの実験を行ってきたが、今回の実証試験は、社団法人全国都市清掃会議が定める新製品認定に関する評価を受けるためのもの。

組合では、設置用地として煙突がある北側の地約五百五十平方㍍と、稼働に必要な水・白量二㌧を提供。建設費や稼働後の人員や経費一切は同社が賄う。

設置期間は、今月五日から平成十一年六月三十日まで。来年三月までにプラントを建設し、四月から平成十一年四月まで一年間にわたって稼働。燃料はA重油を使用し、一千時間の連続運転などの試験を予定している。

山江ごみ処理場では、現在一日平均約四十五㌧のごみを焼却しており、排出される焼却灰は約八㌧にのぼる。NK―1000は一時間で一㌧の処理が可能で、試験計画によれば一年間の焼却灰を、質量にして約五分の一に。重量にして三分の一に減らすことができる。

組合では、同社からの申し入れを受けて職員が茨城県の実験プラントを視察し、先月二十日の理事会で実証試験への協力を承認。この日、同社との間で「焼却灰高温溶融実施プラント設置及び実用化実験研究に関する覚書」を正式に交わした。



焼却灰溶融炉プラントが建設される処理場北側の現地

ご注意
過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。
日本環境保全株式会社